第４学年１組　国語科書写学習指導案

指導者

１　単元名　　ひらがなの筆使い『はす』

２　単元について

本単元は、学習指導要領第３学年及び第４学年の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(2)「ア　文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。」「ウ　点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。」に関する能力を育てることをねらいとしている。

児童は第３学年で『にじ』を題材に、平仮名特有の筆使いである字形の丸みや線のやわらかさ、穂先を意識して線と線とがつながるような気持ちで書くことを学習してきた。本単元では、『はす』を題材にして、平仮名特有の「結び」の筆使いを中心に学習する。児童が書く平仮名の字形が整わないことの理由の一つに「結び」の形がよくないことが挙げられる。「結び」を全て同じような形で書くためである。『は』の「横の結び」と『す』の「縦の結び」では筆使いが違う。そこで、それぞれの筆使いを理解して書けるように、「横の結び」と「縦の結び」に分けて「結び」の筆使いのみを学習するようにする。「結び」を書く際には、筆の軸を回さずに穂を浮かせてねじる（裏返す）ようにする。児童は、穂がねじれることに抵抗を感じたり、筆を押さえつけて書くために穂が裏返りにくかったりすることが予想される。そこで、二色筆を用いて範書して穂先の動きがよく分かるようにしたり、手を筆に見立て動かして指を裏返す動作から穂が裏返る感覚をつかめるようにしたりする。また、児童の手を取って一緒に筆を動かし、穂の弾力を生かして自然に筆がねじれるように書くことを理解させたい。

「結び」の筆使いを学習した後で、『は』の一筆めの外側へのふくらみ（曲線化）、次への「はね出し（筆意）」、二筆めの始筆の角度などの平仮名特有の筆使いも、第３学年での学習を想起させながら習得できるようにする。平仮名の曲線的な筆使いに慣れるために、授業に先だって行う筆の準備運動として曲線を書く練習を行う。線と線とのつながりや、始筆を軽く入ることについては、「いいち、に」のように運筆のリズムを音声化して空書することでイメージしやすくしたい。

最後に、『は』『す』以外に「横の結び」「縦の結び」を持つ平仮名を見つけ、字形に気を付けて硬筆で書いたり、「結び」がある平仮名を用いた言葉や文を硬筆で書いたりすることで、日常化を図っていきたい。

３　児童の実態（男子　　名、女子　　名、合計　　名　　５月８日実施　質問紙法）

4　研究主題、仮説との関連

研究主題　　一人一人が主体的に取り組む書写学習のあり方

〈仮説１〉課題意識のもたせ方の工夫

児童・生徒一人一人が自分にあった課題をもち、自分の文字について振り返りの方法がつかめれば、文字を書こうとする意識が高まるであろう。

（１）仮説１との関連

①　基準の明確化

「結び」の筆使いや字形の整え方等の基準を、範書を示しながらできるだけポイントを絞って提示することで、児童が自分にあった課題をもつことができるようにする。振り返りの際には、自分が設定した課題が達成できたか評価するようにすることで、主体的に学習に取り組むことができると考えられる。

②　自分の言葉での課題の設定

児童が自分の課題をもてたら、それぞれの課題を、教科書の文字を半紙大に拡大コピーした資料に自分の言葉で書き込むようにする。自分の言葉で書くことで、基準を理解して文字を書こうとする意識を高めるようにする。

〈仮説２〉支援の工夫

児童・生徒一人一人が自分の力で解決できるような支援の工夫をすれば、学習意欲が喚起され、主体的に取り組むであろう。

（２）仮説２との関連

①　手を筆に見立てた練習

手を筆に見立て動かして指を裏返す動作から穂が裏返る感覚をつかめるようにする。また、「スー　フワッ　クルッ」のようにオノマトペを使って筆使いを音声化することで、筆圧や穂先の動きが理解できるようにする。

②　練習用紙の作り方の工夫

教科書の文字をもとに、自分の課題解決に必要な練習用紙（「かご字」「ほね書き」など）を作ることで、自分に合った練習方法を考え、意欲的に学習に取り組むことができると考える。

③　筆の軸を意識するための工夫

「結び」を書く際に筆の軸を回してしまう児童がいることが予想される。そこで、筆の軸に目印となるシールを貼り、常にその目印が見えるように筆を持って動かすようにすることで、筆の軸を回さずに書けるようにする。シールの位置は、筆を持った時に親指の下側になるようにする。

教師の筆にも同じようにシールを貼り、範書の際に着目させたい。また、児童同士で見合う際にも、目印に注目することで、筆の軸を回さずに書いているか判断することができるであろう。

④　掲示物の工夫

児童が進んで学習に取り組めるように、書写の学習の進め方や練習用紙の作成例を掲示する。

⑤　教室環境の工夫

教室の中に水書コーナーを設け、休み時間等にいつでも毛筆の練習ができるようにする。毛筆に触れる機会を増やすことで毛筆の技能が高まり、学習意欲の向上にもつながると考える。

〈仮説３〉評価方法の工夫

学習のねらいや実態に応じた評価の規準を明確にすれば、児童・生徒は文字感覚が豊かになり、日常の書写学習に生かすことができるだろう。

（３）仮説３との関連

①　振り返りの場の設定

児童同士で練習の成果を見合う場を設けて良かったところを伝え合うことで、基準をより理解したり、自分の文字について振り返ったりすることができ、筆使いや字形の整え方に気をつけて書こうとする意識が高まると考える。

②　振り返りカードの工夫

振り返りの際には、試書とまとめ書きを比較し、振り返りの場での友達の言葉（他己評価）も踏まえて、自分の課題が達成できたかを評価（自己評価）するようにする。試書とまとめ書きを比較することで、視覚的に本時の変容が分かり、達成感を得られるようにしたい。振り返りカードには、気づいたことや感想を書く欄を設け、自分の言葉で記入することで、学習内容の理解が深まり、文字感覚が豊かになると考える。また、硬筆で書く欄も設けることで、日常の書写活動に生かそうとする意識を高めたい。

５　単元の目標

○「結び」の筆使いに気を付けて書こうとしている。（関心・意欲・態度）

○「結び」の筆使いや形の違いに気をつけて書くことができる。（技能）

○「結び」の形の違いを確かめて、硬筆で書くことができる。（技能）

○「結び」の筆使いを理解することができる。（知識）

６　単元の指導計画（３時間扱い）

時	ねらい	主な学習活動
1（本時）	『は』と『す』の「結び」の違いに気付き、「横の結び」の筆使いを理解して書くことができる。	○毛筆で『はす』を試し書きする。 ○『は』と『す』の「結び」の違いを話し合い、「横の結び」「縦の結び」を知る。 ○「横の結び」の筆使いを理解し、『は』の「結び」を練習する。 ○「横の結び」がある平仮名を硬筆で書く。 ・「横の結び」の例･･･は、ほ、な、ま、よ、ぬ、ね、る
2	「縦の結び」の筆使いを理解して書くことができる。	○「縦の結び」の筆使いを理解し、『す』の「結び」を練習する。

		○中間のまとめとして『はす』を書く。 ○「縦の結び」がある平仮名や、『す』が付く言葉を硬筆で書く。 ・「縦の結び」の例･･･す、お、み、む
3	「結び」の筆使いや形の違い、字形に気をつけて書くことができる。 「結び」の形の違いを確かめて、硬筆で書くことができる。	○平仮名の筆使いや字形の整え方を理解し、『はす』を練習する。 ○「結び」の筆使いや形の違いに気を付けて、『はす』をまとめ書きする。 ○硬筆で『はす』を書く。 ○「結び」のある文字を使った単語や文を書く。

7　本時の指導（1／3）

（1）目標

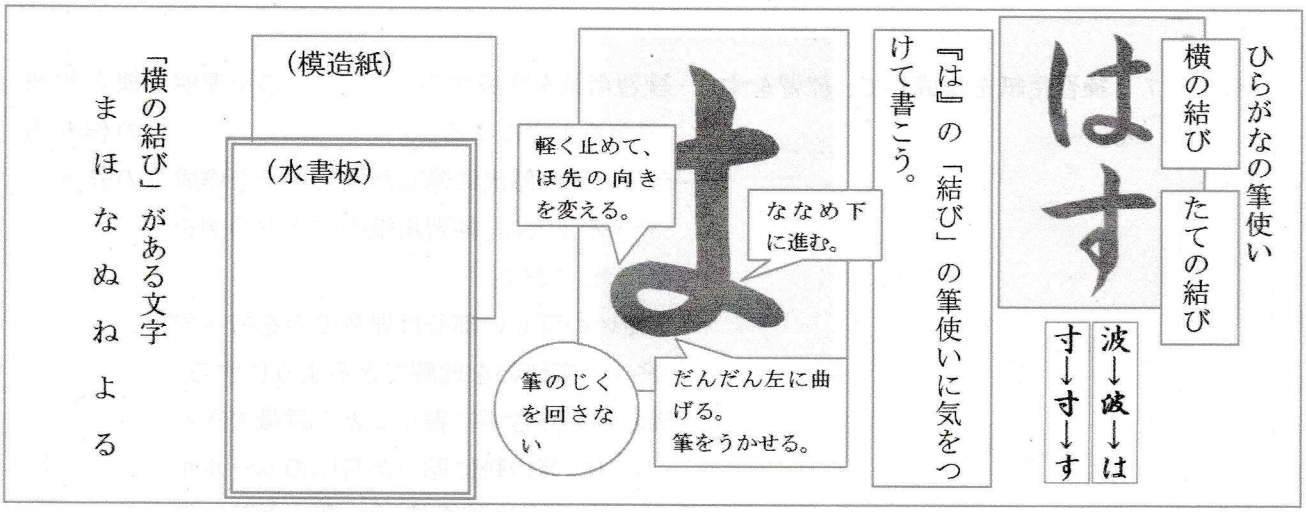
○『は』の「結び」の筆使いを理解することができる。

○『は』の「結び」の筆使いに気をつけて書くことができる。

（2）展開

過程	学習活動と内容	教師の指導・支援と評価（◇）	資料
	1　運筆練習をする。	・姿勢，筆の持ち方が良いかどうか声をかけ、意識化する。	運筆練習の資料
試書	2　これまでの学習を振り返り、「結び」の筆使いの学習であることを確認し、半紙に毛筆で『はす』を試書する。	・三年生で学習した『にじ』から平仮名の特有の筆使いである丸みや線のやわらかさを想起させ、「結び」も平仮名特有の筆使いであることを確認する。	
	3　試書の検討をする。 ・教科書の文字を比べて「結び」の違いついて話し合う。 ・『は』の「結び」を「横の結び」、『す』の「結び」を「縦の結び」と呼ぶことを確認する。 ・試書と教科書の文字とを比べて「結び」の筆使いについて話し合う。	・『は』と『す』の「結び」に着目するように助言し、筆使いや形の違いに気付けるようにする。 ・「結び」の形が異なる理由が分かるように、『は』と『す』の字源（波・寸）を示す。 ・書いてみて難しかったところ、困ったところなどを発表するように促し、本時の目標につなげる。	『はす』の拡大資料 教科書のB4 判拡大コピー「結び」だけを切り取った資料
目標把握	4　本時の目標を知る。 『は』の「結び」の筆使いに気をつけて書こう。		

基準確認	5　「横の結び」の筆使いを確認する。 《ポイント》 ①縦線からだんだん左上に曲げる。 ②左上に曲げながら、筆を浮かせる。（筆圧を軽くする。） ③軽く止めて、穂先の向きを変える。 ④斜め下に進める。 ⑤筆の軸は回さない。	・穂先の動きがよくわかるように，筆に薄めた墨液を含ませ，穂先に朱墨をつけて範書をする。 ・教師の手の動きや筆に貼ったシールに着目させ、筆の軸を回さずに描くことを確認できるようにする。 ・手を筆に見立てて動かし、筆の軸を回さずに穂を浮かせてねじる（裏返す）感覚をつかめるようにする。 ・「スー　フワッ　クルッ」のようにオノマトペを使って音声化することで、筆圧や穂先の動きを理解できるようにする。	模造紙 朱墨，墨液，筆 テレビ 書画カメラ 半紙
	6　自分の課題を、教科書を拡大コピーした資料に書き込む。	・筆使いのポイントを「結び」の拡大資料に示し、参考にしてもよいことを伝える。 ◇自分の課題を、筆使いのポイント参考にして教科書を拡大コピーした資料の中に書いている。（知）	
練習	7　練習用紙を作成して、練習をする。	・練習用紙を作成することで、字形を理解できるようにする。 ・自分の課題解決に適した練習用紙を作成できるように、練習用紙の作り方の例を掲示しておく。 ・筆使いの難しい部分は児童の手を持って書き、筆使いを理解できるようにする。 ・筆の軸を回さずに書くことを意識できるように、筆の軸に貼った目印のシールが見えるように筆を持って書くように促す。	練習用紙の作り方の資料
まとめ	8　隣同士で『は』の「結び」の筆使いを見合う。 ・半紙の上部に『は』の三筆めだけを書く。	・筆使いのポイントで、よくできていた部分を伝えるように助言する。	
	9　まとめ書きをして，自己評価を行う。	◇筆使いのポイントを意識しながら、『は』の「結び」を書いている。（技）	

	・８で用いた半紙の下部に『は』だけを書く。 ・課題が達成できたか評価する。また、分かったことや感想を記入する。	・試書と比べ、各自の課題の達成度を確かめるように伝える。また、友達に見てもらったときの言葉も参考にするように伝える。	振り返りカード
日常化	10　「横の結び」がある平仮名を探して、鉛筆で書く。 例：は、ほ、な、ま、よ、ぬ、ね、る 11　次時の学習の予告をする。 ・『す』の「結び」の筆使いに気をつけて書く。	・教科書の「ひらがな表」を見ながら探すように促し、どの文字に「横の結び」があるか全体で確認する。	教科書

板書計画